

工藤 克巳（くどう・かつみ）

1、プロフィール

1948(昭和 23)年、14 歳で俳句入門。昭和 27 年第 1 回青森県高校生俳句大会で寺山修司とめぐり逢う。高校教諭となり職場句会「満天星」、「苔桃」を結成指導する。その後「苔桃」俳句会代表となる。

1990(平成 2 年)第 4 回俳壇賞を受賞。

<生没>

1933(昭和 8)年 11 月 21 日 ~ 2024(令和 6)年 3 月 29 日

<代表作>

彼が凝るエーゲ文明皿に葡萄
たゆみなく蟻吐き出して地の疲れ
豆腐からかなしみのくる母の日よ
虫たちのオーケストラが解散だって
樹脂の上を樹脂が流れて原爆忌

<青森との関わり>

高校教諭となり、青森市立中央高校で職場句会「満天星」を結成。青森県立青森工業高校で「苔桃」句会を結成。高校文芸部で生徒の育成に励む。

2、作家解説

本名 工藤克己。青森市生まれ。1958(昭和 33)年、弘前大学教育学部卒。小学生時代、教師による週 1 時間の朗読で芥川龍之介「蜘蛛の糸」や宮沢賢治の「風の又三郎」などを知り、文学に目覚める。中学 3 年(14 歳)で俳句を始める。長兄(元新聞論説委員、著書に「青森県短歌俳句史」など)や次兄が一時俳句をや

っていたことなどで俳句の土壌は内部でじわじわ形成された。高校時代「学窓」や「螢雪時代」の文芸欄に投句、中村草田男、加藤楸邨の天位などに選ばれた。中学生からの親友齋藤讓の父親は一級建築士、彫刻家、棟方志功館の設計者として知られ、青森県文化賞を受けている関係から芸術的雰囲気は俳句への火種となる。

俳歴

1967(昭和 42)年、「暖鳥」同人。

1977(昭和 52)年、県文芸協会新人賞を受賞。

1979(昭和 54)年、「暖鳥賞」を受賞。「暖鳥」同人を辞す。視野を広げ、自分の作品を見直すため、県外に重点を移すことにして「陸」(主宰・田川飛旅子)同人となる。

1980(昭和 55)年、81 年、「俳句研究」50 句競作で佳作。

1981(昭和 56)年、俳句作家連盟会員となり、青森県支部副会長。

1987(昭和 62)年、「つばき」同人。

1989(平成元)年、「白燕」同人。現代俳句協会会員。

1990(平成 2)年、第 4 回俳壇賞を受賞。

1991(平成 3)年、「門」同人。「門」青森支部長。俳人協会会員。

1992(平成 4)年、「埠頭」創刊同人。「埠頭」会長歴任

著書

句集『アダムの林檎』(平成 5 年 9 月 15 日 本阿弥書店)

句集『俳句の杜 I』(共著)(平成 15 年 3 月 30 日 本阿弥書店)

句集『十七音のアラベスク』(平成 20 年 3 月 26 日 本阿弥書店)

句集『工藤克己句集』(平成 26 年 6 月 10 日 東奥日報社)